

大友 昌子 ゼミ

教員の研究関心領域

いま日本の社会福祉のあり方が大きく変わろうとしています。こうした社会福祉の変容や転換は、時間軸、空間軸ともに大きなスケールでその動向をとらえる必要があります。この変化の背景には何があるのか、この変化は私たちとその社会に何をもたらそうとしているのか、そして私たちは21世紀の福祉社会をどのように構築していく必要があるのか、こうした現状と将来展望をみすえながら、具体的には次のような関心のもとに研究をすすめています。日本および東アジアにおける福祉政策の歴史研究、福祉政策および福祉文化的基盤の国際比較。日本および東アジアにおける地域社会福祉政策。児童福祉領域の政策史、施設史研究。

4年までのテーマ・方針・内容

演習1・2・3の共通テーマは「福祉の地域政策・地域の福祉政策」です。社会福祉、福祉領域にはばひろくアプローチできるよう、思考と分析のツールとして、社会学的な学びを深めます。以上の方針のもと、演習1および演習2の春学期では、(1)文章執筆およびプレゼンテーションの訓練、(2)ギデンズの『社会学』を精読し、理論的思考を身につける、の2つを柱に学習を深めます。(1)では、レジメの作成と学習成果の発表、(2)の理論的思考の訓練では、やや難しい内容に挑戦します。社会学の思考方法、キーワード、概念などを理解して、福祉事象、社会事象の解釈へとつなげます。演習1の秋学期は、共同学習の成果を大学祭などの場で発表します。演習2の秋学期は、統一テーマのもと、個人が関心をもった課題を中心に、グループもしくは各自でフィールドに出て、課題とする社会事象や福祉事象について、観察記録を行い、資料を収集し、レポートにまとめます。そして4年次の演習3では、卒業論文を書くことに集中し、論文の書き方を指導します。学生主体のゼミ運営を行います。

卒業論文のタイトル例

「障害者Nさんの自立と親子関係」
 「障害者と情報」
 「障害をもつ子どもと共に生きる—『障害受容』の過程—」
 「知的障害者就労とその課題—知的障害者就労現場をととしての一考察」
 「障害児の学童保育と支援の方法—夏期障害児学童保育の臨床現場からの一考察」
 「生活保護制度と情報—N市A区の取り組みから」
 「高齢者が暮らす舞台としての住宅環境」
 「認知症と家族介護—認知症患者と共に楽しく暮らすための工夫—」
 「『家族』とはどのようなものなのか—『単身者』所帯を通じての一考察」
 「『不登校』児童生徒の理解と社会的支援—ホームフレンド活動を通しての一考察」

成績評価 基準・方法

参加度、貢献度、プレゼンテーションなどを評価。

自己紹介 こんな学生を歓迎

私は神奈川県で生まれ、東京で育ち、名古屋の住人となって28年が過ぎました。巨大アパートの3階がわたしの「すみか」です。大学生として社会福祉を学びはじめたから40年、この領域と関わってきました。日本の社会福祉が大きくその基本的性格を変えようとしている現在、次の福祉社会をどう構築すればよいのかを考えることを自らの課題としています。最近、植民地社会事業の歴史研究をまとめることにより、東アジアの福祉文化的基盤の特質、東アジアの福祉の歴史研究、ソーシャルワーク実習のあり方検討など、研究の視野が広がりました。教員が無口なのでよくしゃべる、冒険好きな学生を歓迎します。

演習 I テーマ:

内容 スケジュール

個人個人の基礎力を養うことを目標に、文章執筆やプレゼンテーションの訓練、ギデンズの『社会学』の精読、という2つのプログラムを行います。文章執筆やプレゼンテーション訓練では、1つのテーマにゼミメンバーが分担して取り組み、学園祭などの場で発表します。2011年度、2012年度は「災害と福祉」をテーマに取り組みました。またギデンズの『社会学』の精読では、やや難しい内容に挑戦します。社会学の思考方法、キーワード、概念などを理解して、福祉事象、社会事象を解釈できる力を養います。学生主体のゼミ運営を行います。

その他

演習 II テーマ:

内容 スケジュール

春学期と秋学期で異なる学習プログラムを行います。春学期は2年次と同じで、基礎力の養成を、秋学期は4年次の卒業論文執筆に向けて、統一テーマを設定し、また学生個人個人の関心にそってグループ学習をすすめて、『ゼミ報告書』にまとめます。2011年度、2012年度は「災害と福祉」をテーマに取り組みました。グループ学習では、フィールドワークにも取り組みます。学生主体のゼミ運営を行います。

その他

演習 III テーマ:

内容 スケジュール

2年次、3年次での訓練と学習をふまえて、卒業論文の執筆指導を行います。論文執筆は大学での学びの集大成であり、この学びのプロセスをつうじて、ものの見方、論理性、表現力、文章力、プレゼンテーション能力など、総合的な知の力と生きる力の獲得をめざします。教員による学生の個別指導を行い、一人ひとりの個性にあった論文執筆を行います。

その他